



### 家に帰って 無事に 1年が 過ぎた！

Uさん 76歳は 平成28年3月 脳梗塞で倒れ、左半身麻痺となり 6ヶ月リハビリを行い、同年11/4 に退院し、在宅療養生活となった。

当初の居宅介護支援計画ではリハビリを行うため、週2回 デイケアに通い、週3回 デイサービスを利用することになっていた。

便秘もあり、体調管理も必要なため、週1回30分の「訪問看護」の利用で 要介護4のサービスの限度額は いっぱいになり心配していた矢先に 看護小規模多機能型居宅介護『ケアホーム希望』を知った。「訪問看護・介護」、「通い」、「泊まり」のサービスを自由に組み合わせ、定額料金でサービスが溢れない。週に5回「通い」のサービスを利用し、PT（理学療法士）によるリハビリや入浴、便秘時の排便コントロール等の体調管理まで常駐の看護師が対応してくれる。更に風邪や脱水等で体調を崩した時には往診医と連携を図り、すぐに看護師が自宅で点滴等を行ってもらい大事に至らなく、1年が過ぎた。

家に帰り ホットした反面、高齢な妻との2人暮らしで不安や介護負担も大きかったが、近所に住む娘たちが交替で夜は泊まり、孫たちもトイレ介助や散歩に一緒に行ってくれる。

朝は「じいちゃん、薬飲んだ？」と、孫たちが薬の管理もしてくれる。

病気をして、左半身が動かなくなり、失ったものは大きかったが、今では家族の愛が深まり毎日笑い声が絶えず幸せだ！

次は歩く訓練ですよ



やっぱり我が家がいい！！



かんぱ〜い



血圧のコントロールが  
大切ですね



臨機応変に対応してくれる『ケアホーム希望』のサービスが利用でき、  
家族も安心して在宅療養生活を送れていることに感謝している。



# 秋は いいなあ～！

## 読書の秋



何度読んでもおもしろい



気持ちがいい～♪

## 食欲の秋



美味しい～！



うまいもん  
作ってやるよ～



## のぞみ 希望 日誌

### 息子よ 父は偉大なのだ！

K氏 90歳は『ケアホーム希望』を利用して1年5ヶ月になる。その間、何度も入退院をくり返すたびに身体は痩せ細り、食べることさえできなくなってしまう。1日中 点滴をし、痰も自分で出せず吸引等を行うと「もう何もしなくていい 家に帰りたい…」と。息子は病弱で寝たきりの母親と、終末期の父親の介護は体力的にも自信がないと『ケアホーム希望』での看取りを望んだ。そして「少しでも父親の介護をしたい」と時間ができると面会に来て、吸引や口腔内ケア、清拭やおむつ交換等を職員と一緒にいった。「家に帰りたい」の言葉を聞いたたびに、何度も家に帰ることを検討したが、どうしても踏み切れずにいたある日の朝、K氏は息子を待たず、スーツと息を引き取った。その後、K氏は自宅には帰らず安置所に行ったが、火葬場が立て込み、自宅に帰れることができた。息子は「やっぱり、家に帰る状況になるんですね」と涙する。

### K氏の 最期に立ち会って…

介護の仕事に就き4年になる。『ケアホーム希望』に入職していなかったら人の人生の最期の日に関わるなんて考えられないことだった。夜勤に入るといつ急変するかわからず不安でいっぱいだった。きっと家族も不安な気持ちで最期に立ち会っているんだと痛感した。吸引は「痛がり 嫌がっているのにこれが本当に良いことなのだろうか」と不安になることもあったが、吸引後に「ありがとう」という一言で何度も救われ、穏やかに眠る姿を見て安心した。看取りに関わる人たちの気持ちや関わり方で苦痛緩和になり、穏やかに逝くことができるのだと思った。



私は『ケアホーム希望』に看護師として入職して半年になる。今までは施設でたくさんの高齢者の看取りにも関わってきたが、バタバタと業務に追われている自分がいた。『ケアホーム希望』では、家族の想いを大切にし、家族ができることを明確にし、家族と介護職、看護師がチームを組み、その人らしい看取りを行う。そして、最後は「ここで良かった」と言ってもらえるケアができホッとする気持ちでいっぱいだった。 Kさん、天国で安らかに…。